

# 1

**特集** 今、増えている高齢者大動脈弁狭窄症を識る!

## 大動脈弁狭窄症の基礎知識 —どんな病気か？—

向 葉津子 (鳥取大学医学部 病態情報内科学〔循環器内科〕)  
山本一博 (鳥取大学医学部 病態情報内科学〔循環器内科〕教授)

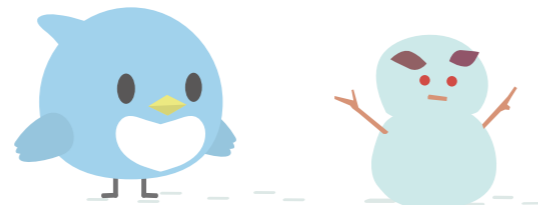


- 大動脈弁狭窄症は、何らかの原因で大動脈弁口が狭くなり、左室から大動脈への血液駆出が障害される疾患である!
- 大動脈弁狭窄症は長期間無症状で経過するが、いったん症状が認められると非常に予後不良な疾患である!
- 大動脈弁狭窄症の根本的な治療は外科的治療(手術)である! 適切なタイミングで手術を施行することで、患者の症状・予後を改善することができる!

### はじめに

高齢化社会に伴って、大動脈弁狭窄症(aortic stenosis; AS)を有する患者は増加しており、今後も増え続けると予想されています。

今回のテーマである高齢者ASについて学んでいく前に、まずはASとはどのような病気か、十分に理解しておく必要があります。本章では、ASとはどんな病気なのか、その原因、症状、治療方法、予後などについて、簡単に説明していきます。



## 大動脈弁狭窄症とはどのような病気か

### 大動脈弁の構造や働き

まず、大動脈弁の構造や働きについて説明します。

心臓は左右の心房・心室の4腔から構成され、心房と心室の間、および心室と動脈との間に合計4つの弁を有します。左室から大動脈への出口に位置する弁を「大動脈弁」と呼びます(図1)。

大動脈弁は3つの半月弁(3尖弁)で構成されており、半月弁は、ここから起始する冠動脈に対応して「左冠尖」「右冠尖」「無冠尖」と呼ばれます。大動脈弁は、心臓の心室収縮期に開口し、心室拡張期に閉鎖します。心室拡張期に大動脈弁がぴったりと閉鎖することで、大動脈から左室内への血液の逆流を防止します(図2)。

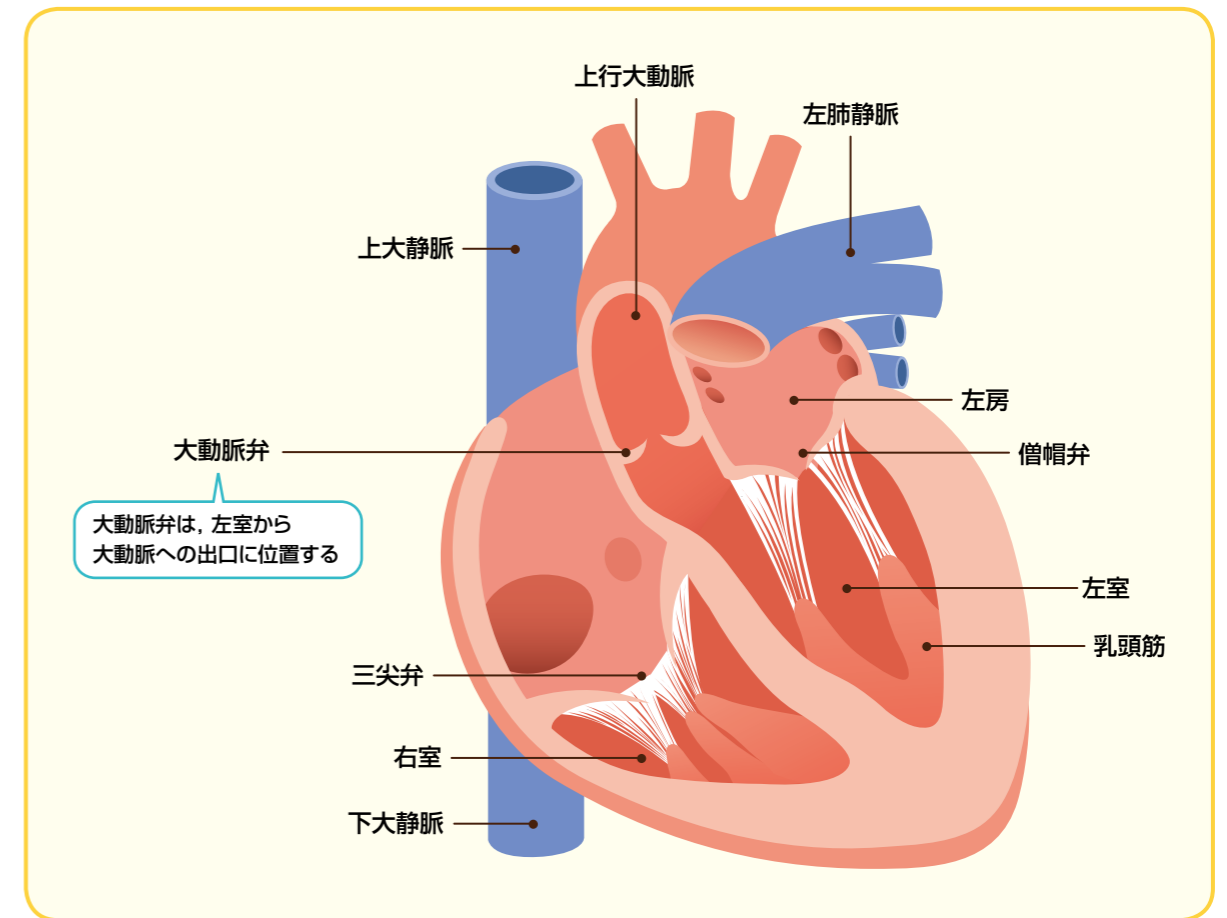


図1 心臓の構造と大動脈弁の位置